

—檜原村は広い— (1)

(記 岡本)

東京近郊の低山日帰り山行を始めて以来、最もお世話になったのは、檜原村の地域である。東京都下の島嶼部を除き唯一の村であるし土地勘も多少あるので、色々と檜原村について探ってみると興味深いと思った。これまでの山行記録を参考にしつつ、また檜原村に関する参考資料を幾つか渉猟して探ってみたことを参考に、何回かに分けて気随のままに、少し慈愛を込めて描いてみたい。



これまで檜原村が広いという実感はなかったのだが、調べてみるとこれが予想外に広い。面積 105.41 km²、東西に 13.85km、南北に 10.00km であるが、地図を見ると、東西に少し長いジャガイモのような形をしている。その広さと共に改めて人口の少なさにも驚いた。広さで言えば、東京都区最大の大田区 60.66 km² より広く、市町では奥多摩町 225.53 km²、八王子市 186.38 km² に次ぐ 3 番目である。人口では島嶼の小笠原村の 2862 人(令和 4 年 4 月 1 日推計)より少なく、1947 人(同)である。檜原村は平坦地は少なく 93%が林野で、周囲は急峻な山嶺に囲まれ、80%が秩父多摩甲斐国立公園に含まれている。

村の南は山梨県上野原市、神奈川県相模原市緑区、北は奥多摩町、東はあきる野市五日市、八王子市、西は山梨県北都留郡小菅村(三頭山付近で隣接)に囲繞されている。隣接する自治体名をみると村は威圧されているように見えるが、小菅村には同じ村として親しみを感じる。

村の最も西の外れに聳え三つの峰頭を持つ三頭山(標高 1531m)が村の最高地点である。ここを出発して村の周辺を一周してみる。頂上から南東へ発する笹尾根を進み次第に標高を下げていく。大沢ノ頭、榎寄山、(西原峠、さいばら)、(笛吹峠、うずしき)、丸山、(小ゆずり峠)、土俵岳、(日原峠)の 1000m 級の山頂を経る。甲武トンネルを越えて浅間峠を過ぎると、1000m を切る。ここまで笹尾根の峠五つを越えたことが注意を引く。熊倉山、軍刀利神社元社、三国峠(三国山)を経て生藤山(しょうとう)まで来ると山梨県境から神奈川県境と接することになる。連行峰で三国峠道(六方尾根)を左に見て東行する。醍醐丸を過ぎると、その東は八王子市に入るが、醍醐丸で北に折れて吊尾根を降りる。市道山(いちみち)に到着すると、あきる野市五日市と接する。市道山から北の臼杵山(うすき)山に登り返す。臼杵山に源を発し北上する中山沢が秋川に注ぐところ(中山橋)が村とあきる野市五日市との境界である。三頭山から臼杵山までのルートは踏破したことがあるが、臼杵山から中山橋間の沢沿いには、登山道がなく未踏破である。

次いで、三頭山から時計回りに歩いてみる。奥多摩町との境を東に進む。鞆口峠に降り、砥山に登り返して風張峠に又降る。奥多摩周遊道路近くの月夜見山から小河内峠、惣岳山を経て、奥多摩三山の御前山(標高 1405m)に至る。早春にはカタクリの花が観られる。鞆口山から大ダフ、鋸山など 1000m 峰を幾つか越えて岩稜風の大岳山(標高 1266m)に着く。山頂の直下に鎮座する大岳神社は嘗て村内唯一の郷社で賑わい、村は大岳神社の門前町として開けたとまで言われていた。次いで先にある芥場峠(あくば)の手前で南東に折れ、大滝で南西に曲がると、富士見台のあるあきる野市五日市との境をなす馬頭刈尾根に入る。尾根を降って馬頭刈山から枝尾根の泉沢尾根を降る。泉沢集落から秋川に到着する。その対岸に中山橋がある。

泉沢尾根の部分と芥場峠手前から富士見台までの間は未踏破である。臼杵山から中山橋間の部分も含めて、村の外周境界線の中で未踏破部分は大雑把に見て15kmほどである。残った未踏破ルート約15kmも歩き切って、村をギュッと抱きしめたいのだが、登山道のないところなので諦めざるを得ないようで、残念至極である。

周囲を峻険な山陵で囲繞された村にとって、山の地勢から流れ出る秋川は恵みの母である。川の流域以外に全く平坦地はなく、河岸こそ住宅地であり、耕作地であるのだから。村には二つの秋川がある。南秋川は三頭山に源を発し、北秋川は月夜見山の麓から流れる。二本の秋川は東方向に羊腸のごとく激しく蛇行して岩間を流れ下る。

南北の秋川の間にあって分水嶺を成すのが、浅間尾根である。浅間尾根は900m前後の緩やかな起伏が続き、往時の長い間、村の幹線交通路の役割を果たしてきた。尾根の南北への斜面は、急坂を成して川筋に降っている。南秋川にとって、浅間尾根は北側の分水嶺で南側のそれは笹尾根である。他方、北秋川の北側分水嶺は、概ね陣場、湯久保の両尾根が成しており、南側分水嶺は浅間尾根である。

二つの秋川は本宿の村役場、橘橋付近で合流して一本になる。合流点の地域は村の中心地である。合流した秋川は上元郷、泉沢を流れ、中山橋であきる野市五日市側に出る。遂には多摩川に注ぐ。

今回は檜原村の縄文時代について触れる。

(了)

参考資料

- 「やさしい多摩市町村の歴史」 武蔵野郷土史刊行会 昭和56年2月刊
 - 「郷土史檜原村」 檜原村文化財専門委員会 平成8年3月刊
 - 「檜原村紀聞・その風土と人間」 瓜生卓造著 東書選書 昭和52年6月刊
 - 「多摩の山と水 (下)」 高橋源一郎著 八潮書店 昭和58年2月刊
- ウキペディア 檜原村